

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年12月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	県内の醤油出荷量は前年同月に比べて大幅に減少した。依然として消費の低迷が続いているものと思われる。
	パン・菓子製造業	お正月用のお菓子里に力を入れていたが、期待したほどの売上は上がらなかった。
繊維・同製品	織物業	大型小売店の倒産による信用不安などの悪影響が甚大である。倒産の原因となった無理な過剰販売による消費者の信用失墜を払拭していかなければならず、非常に厳しい状況で推移している。
	ねん糸製造業	ストレッチ繊維は機能性に高い評価が得られ、パスト・タイツや靴下、インナー、スポーツから一般衣料へと需要が広がっており、今後に期待の持てる素材である。
	その他の織物業	12月度は、前年に比べ6%の売上増となった。先月に引き続き若干の売上増加となったが、この状態がいつまで続くのか不安を抱いている。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	原木の入荷量も順調に入荷し、販売価格も上昇している。だが来年度の仕事を確保出来ている業者が少ない。
窯業・土石製品	砕石製造業	12月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比では生コン向け出荷、合材用アスファルト向け出荷といずれも増加となり、全体量では47.9%と大幅に増加となった。これは前年12月の大雪の影響で出荷量が落ち込んでいた為である。4月～12月期の全出荷量では対前年同月比で見ると、合材用アスファルト向け出荷が15%増、生コン向け出荷が6.3%増となっており、全体量では7.4%の増となっている。
	陶磁器・同関連製品製造業	12月中旬に名古屋で開催された新作発表会を皮切りに2月初旬に開催される発表会の出展へ向けての準備を進めている。また九谷茶碗まつりの調査についても引き続き検討を行っていく。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷状況は前年同月比128.8%とプラスの出荷量となった。地区状況は、金沢、南加賀、能登地区でプラスとなったものの、鶴来・白峰、羽咋・鹿島、七尾地区ではマイナスで推移した。官公需、民需に関しては、官公需は相変わらず厳しさが続いており、民需は多少好調といった感じである。
	粘土かわら製造業	12月は雪が積もらなかったため作業がスムーズに行えた。出荷数も昨年に比べ約50%も増加している。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	相変わらず活況が続いている。
	非鉄金属・同合金圧延業	日本経済は景気が回復傾向にあると言われているが、当業界は主要取引先である仏壇・仏具業界の景気の回復が遅れており、その影響から販売単価の低下、需要の停滞が続いており、依然として低水準で推移している。
	鉄素形材製造業	平成18年の当業界の景況は、前年に比べ好調に推移し、生産量は10%増の3万トンを超え、過去5年間の中で最も高かった。しかし、鑄造資材等の値上がりで業績は厳しくなっている。また、生産品目によっては受注の停滞が見受けられ、企業間格差も現れてきている。
	鉄素形材製造業	前年同月に比べて、売上高や設備操業度は低下している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年12月分)

一般機器	繊維機械製造業	機械部品加工の分野では好調が続いている。だが夏頃までのような勢いは無くなってきている。中にはまだまだこのような好調な状態が続くと楽観的な見方をする方もいる。
	プレス、工作機械	12月は順調に推移した。現在の受注の中には、来期の4～7月の物がかなりあり、来期もかなり高い水準で推移するものと思われる。ただし、ステンレスの値段が高騰し続けており、今後は価格に転嫁出来なければ、収益を圧迫する要因となるため動向に注視しなければならない。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	公共事業関連は停滞気味であり、一部自動車関連でも設備投資延期の気配がやや見られることから、受注も少々減少傾向にあると思われる。
	機械金属、機械器具の製造	相変わらず高水準の操業度を維持している。工場や設備機械の増設も随所に見られ、これらによる生産能力アップもすぐにフル稼働の状況である。但し、それらを完全に使いこなす人が不足しているのが悩みである。能力のある人材の確保が課題である。その他として季節柄の雪による操業度のダウンが心配される。
その他の製造業	漆器製造業	木製漆器では伝統的な正月用品に加えて主力の椀の動きも悪く、近代漆器もおせち容器用の重箱等が環境問題等の影響から苦戦を強いられている。春から秋にかけての回復傾向は薄れてしまっている。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	絹業界は依然として低調である。合繊分野では活況との声が聞かれる。トレンドを上手く捉えたのではないかと考える。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高は前年同月に比べるとやや減少傾向にある。ただ通年で見ればほぼ横ばいで推移しており、今後に注視していきたい。
	一般機械器具卸売業	年間を通じての数字はまずまずといったところである。
小売業	燃料小売業	暖冬が続いているため灯油の販売量が昨年同期に比べ大幅に減少している。ガソリンで灯油の販売量をカバーを行いたい、ガソリンの販売価格も低下し、採算は悪化している。
	機械器具小売業	12月に入ってから、PDP・液晶テレビの販売が好調で、前年に比べ60%も伸びている。その他にもルームエアコンや冷蔵庫も持ち直してきており、全体では前年に比べ10%の伸び率を確保した。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	寒気の到来に伴い、歳末商戦も中旬まで順調に推移し、前年を上回る状況であったが、後半の積雪に期待したが、期待通りの結果とはいかず、対前年比98.9%で留まった。
	鮮魚小売業	12月初旬は荒天のため入荷量が少なく高値で推移した。中旬に入り、入荷量も安定したが、お歳暮の時期の終了と共にお客様の購買意欲が低下し、年末まで活気が戻らない状況となった。
	他に分類されない その他の小売業	昨年の中旬は大雪の為、観光客が激減したが、今年は順調に推移した。その中で、食品関係は前年同期を上回っているが、工芸品は苦戦が続いている。
	百貨店・総合スーパー	12月度の売上は予算比92.6%、前年比99.7%と昨年並みで推移した。昨年は大雪であったが、今年は雪も無く順調であったため、前年を越えるだろうと予想していたが、最終的には昨年並みで落ち着いた。暖冬でファッション関係の売上が伸び悩んだ事が原因であると考えられる。
	米穀類小売業	帰省客等の食料(米を中心)の確保を見込んでいたが、消費者の食の嗜好の多様化等の影響から、例年に比べ販売量が減少した。その他小売店ではなく大型商業施設で米を購入する消費者が増えている事もあり、どのようにして販売量を増やしていくかがこれからの課題である。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年12月分)

非 製 造 業	商店街	近江町市場	人出については平年並みであったが、売上は微増で推移している。
		尾張町商店街	市内の大手商業施設では開店して半年ほどで数店舗が入替になっているとの事であり、ちょっと早すぎるテンポに戸惑うよりも、建前の好景気の底に流れる暗い部分を感じている。やはり次に買物に行っても、その場所に店があるという消費者の安心感が不安定になるとき、その時だけの単なる見栄えの良い店よりも、いびし銀のような安定した老舗に回帰してくれる消費者を確保する事が重要なのではないか。
	サービス業	旅館、ホテル	11月の後半から各施設では、平日の宿泊客数が前年に比べやや減少傾向にある。また年末年始においても昨年以上に減少しており厳しい状況である。
		旅館、ホテル	12月度は対前年比10%プラスで推移した。忘年会シーズンにおいても前年に比べ利用人数が多く見られた。
		自動車整備業	継続検査実績車輛数は、前年同月比5.1%増、前月比14.2%減となった。新規検査状況は、前年同月比6.7%増、前月比16.7%減となった。軽自動車の伸びが前年対比でプラスとなっている。
		旅館、ホテル	地域全体の宿泊人員は減少傾向にある。観光客が増加する要因が無い状況下において、このままでは次々と淘汰され危険な状況に陥る。観光客を増加させるためにはどうすれば良いのか。そして土地のイメージから観光客に行ってみたくなる中身を備えた恒久的観光地としての魅力作りを考えていかなければならない。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比26.6%の減となった。内訳として、民間土木は25.7%増、民間建築は2.6%減となり、民間全体では3.9%増で推移した。一方、公共土木は35.6%減、公共建築は63.9%減となり、公共全体では41.3%減で推移した。公共工事は依然として厳しい状況にある。
		一般土木建築工事業	他産業では景気が回復していると言われているが、建設業は一向に景気の回復を感じない。公共工事の削減の影響から競争がますます激化している。さらに落札率の低下もあり、受注があっても利益率が悪いなど将来に向けての明るい題材が一つもない。
		板金・金物工事業	12月に入り仕事量が減少し、受注競争が激化し受注単価の下落を招いている。組合全体としてもムードが暗い。
		管工事業	ガス供給工事と給水装置工事の両方とも前年に比べ工事件数は増加している。山側環状道路の開通による影響と思われる。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	12月度は年末なのか荷動きが活発であった。このままこの好況が続けば良いのだが、1月にまた軽油価格の値上げが予想されており、明るい兆しが見られない。
		一般乗用旅客自動車運送業	乗務員の待遇や労働環境は改善されないことから、若手の人材を確保する事が出来ず、乗務員の高齢化に歯止めがかからない。
		一般貨物自動車運送業	軽油価格は少し下がったが、まだまだ高止まりしており、収益の好転には程遠い状況である。売上高については業種差はあるが、荷動きに明るさが感じられ、また昨年に比して道路状況も良かった関係から増加している様である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等